

四三一〇番

秋あきされば 霧きり立ち渡わたる 天あまの川がは 石いし並なみ置おかば
継つぎて見みむかも

四三一一番

秋風あきかぜに 今いまか今いまかと 紐ひも解ときて うら待まち居をるに
月傾つきかたむきぬ

四三一二番

秋草あきくさに 置おく白しろ露つゆの 飽あかずのみ 相見あひみるものを
月つきをし待またむ

四三一三番

青波あをなみに 袖そでさへ濡ぬれて 漕こぐ舟ふねの かし振ふるほと
に さ夜よふけなむか